

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	姥ヶ山グループホームふれあいの家
(ユニット名)	癒しの間
所在地 (県・市町村名)	新潟県新潟市姥ヶ山6-2-32
記入者名 (管理者)	三井 晴代(管理者兼計画作成担当者)
記入日	平成 21 年 4 月 18 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念はある。		理念はあるが具体性をもう少し持ちたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	5つの大切にしたいことを理念として掲げ、共有し実践しております。		新しい職員も増え、理解度が異なっているところもあるため、今後同じ理解の中で取り組めるように教育が必要と考えます。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	今まで詳しく理念の内容が決まっていなかった。		決まった具体的な理念を広報誌等を通し地域に広めていきたいと考えております。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方との挨拶はもちろん、隣の小学生との交流は多く、気軽に遊びに来てくださったりとても日常的な付き合いが出来ていると思います。		もっと多くの方にGHを知って頂ける様、受身ではなくこちらからも様々な事を発信していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の運動会や防災訓練等に参加し地域の一員として参加・交流に努めています。		来てもらうのも良いが、もっと外にも出て行くようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特にそういった話し合いの場を設けたことがない。		職員のスキルアップにも繋がる為、積極的に地域貢献ができる様、自治会との連携を更に深め実践していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体ミーティング時に全職員に周知。実施の意義を説明し改善に取り組んでいます。		今回の評価を真摯に受け止め今後に繋げていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、そこでの意見を職員等にも周知し、サービス向上につなげています。		運営推進会議以外にも関わりを持っていき、外部に方との良好な関係を作りたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特にそういった機会が今まで無かった。 市からの照会があれば速やかに対応はしている。		行き来する機会もあまり無い為、今後積極的にこちらから機会を作り、良好な関係作り・サービスの向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方もおられるため権利擁護に関して学ぶ機会があります。		研修や勉強会を通して理解を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について資料等を用いて学んでいます。虐待に関しては、中々実態の把握が難しい為、日頃から職員とのコミュニケーションや入居者の心身状態を把握できるように努めております。		今後も学ぶ機会をつくり虐待の防止により努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安が少しでも解消できるよう契約や解約時は十分な説明ができる様に努めています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情は管理者が窓口となり受け付けている。		外部に現せる機会に関してまだまだ改善が必要と思われる。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や立替金の精算時等に近状を報告している。そのほかにも必要に応じて案内の送付を行ったり、定期的に新聞を発行し暮らしぶりなどをお伝えしている。健康状態に変化があった場合などは随時連絡を入れるようにしている。		広報誌を送付して普段の生活状況を知らせている。面会時に状況をお話している。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情は管理者が窓口となり受け付けている。		外部に現せる機会に関してまだまだ改善が必要と思われる。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等を活用しなるべく職員からの現場の声を聴く仕組みがあり、給与等の改定に繋がっています。(夜勤手当・通勤手当の創設)		個別面談も実施しており意見や要望を共有できるように努めている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本的には管理者・計画作成は現場に入らずとも運営できるようなシフトになっている。業務のかなでもその日に応じて休憩時間を変更したりと柔軟に対応できるよう努めている。行事のときなどは職員を多く配置できるようにしている。		更に個別のサービスに対応していきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者が続き大幅な人員の採用等が実際あったが、入居者様に不安感を与えない様、研修やシフト作成時に配慮をした。結果入居者様へ大きな不安や混乱等は見られなかった。		現在は離職率も下がり、安定した中で事業所運営ができています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本社主催の定期研修があり、それに参加している。参加者は持ち帰り、現場での研修を行っている。研修資料はいつでも目を通せるよう整備されてある。は勤務しながらのトレーニングを進めています。</p>		<p>研修したことが、研修だけで終わらないよう、実際の業務に活かしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>会社内での連携はできている。地域のつながりはあまりない。</p>		<p>地域に密着したものであるためにも、今後交流を深めサービス向上を図っていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>会社でメンタルヘルスカウンセラーの無料相談を実施したり、福利厚生の中でも様々な部分で取り組んでいます。</p>		<p>日頃のコミュニケーションや個人面談を通して課題や問題の把握解消に努めたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>昇給や賞与時期に評価を行い、努力や実績について把握する仕組みがある。実績や勤務状態に合わせた昇給や賞与となっています。</p>		<p>外部研修等の情報提供を行っている。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時に時間をかけてご本人の思いをよく聴く機会を作り、信頼関係を築けるよう心掛けている。納得した上でGHを利用していただけるように努めている。</p>		<p>申し送り、ミーティングを通し職員全体でご本人の思いを共有し、信頼関係を築いていく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時にこれまでの経緯や家族の不安、思いをゆっくりと聴き、信頼関係を築くよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の思いや状況何が必要なかを見極めるように努めている。		必要に応じてケアマネージャーなど外部とも連携をとる。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただき雰囲気を知っていただいたり、入居時になるべく本人のなじみのものを持ってきていただいたりとなるべく今までの生活に近い環境を作るよう努力しています。必要に応じて御家族の宿泊等もできるので、慣れるまで一緒に過ごしていただいたりもできる様にしています。		可能であれば利用前の実際の生活も見せていただくのも、場合によっては良いかと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体という基本を日々の関わりの中で大切に、生活を共にすることでご本人の思いを共有することに努めています。一人ひとりのできること・役割を明確にし、職員が学んだり、互いに支えあえる関係づくりをおこなっています。		コミュニケーション技術の向上。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員からの一方通行な関係にならないよう連携を密にし、ご家族と共に支援しあえる体制作りを努めています。		いつでも意見や苦情・相談が言えるような関係。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人又は家族、それぞれに対する互いの思いを受け止めそれがつながる様な働きかけをしていく。		自宅に帰れない理由等、時には家族の立場に立ってご本人に説明を行い相互の関係がより良いものになるよう努めている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親類だけでなく、友人、知人、隣人だった方にも面会に来ていただいており、一緒に過ごす時間を大切にできるよう配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々に自由に過ごす時間も大切にしながら、共有スペースを活用し利用者同士が関わりを持てるような支援に努めています。		利用者同士の協調・支えあう場面も多くみられている反面、過度の介入や口論になった場合は職員が間に入り、良い関係が継続できるように配慮しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な場合は対応していくが、現在は何もしていない。		退所した方においても、必要であれば対応していく。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望やどのような生活を送りたいか思いを聴き取り、日々の生活に反映できるよう把握に努めている。自己決定や表現が困難な方の場合も職員全体でご本人の立場に立って検討している。		本人だけでなく家族や周囲の関係者などからも情報を収集したりしてサービスに繋げていく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにてご本人の今までの暮らしぶりや生活環境を知る仕組みがある。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	小さな変化も見逃さないよう、日々の生活の様子を一日を通して把握するように努めている。		身体状態に限らず、精神状態についても表情や生活の様子から把握するように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の希望を取り入れながらカンファレンスを定期的開催し、課題の把握や対応方法について検討している。必要に応じてご家族からの意見等もお聞きし、介護計画に反映させている。		家族や関係者の方にも話し合いの場に参加していただけるよう今後働きかけていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した見直しを行っています。		常に実情に即したサービスが提供できるように期間にこだわらずに見直しができるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有について個々の記録だけではなく、申し送りノート等を活用しています。介護計画の見直しの際にも活用しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じてできる限り答えられるように努めている。		より柔軟に迅速に対応できるようにしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じてボランティアの受け入れを行っています。また、隣接する同法人のデイサービスで行われるボランティアの発表等にも積極的に参加しています。隣に小学校があり定期的に交流する機会があります。		小学生や中学生のボランティアも来ていただけており、様々な地域資源を活用させていただいております。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、特に行っていない。		本人・家族の希望や必要に応じて他のサービスも活用していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいているが、協働というところまでは至っていない。		必要に応じて協働していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じ往診もしていただける。		本人及び家族が希望する場合は、協力医以外のかかりつけ医の受診支援をしている。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する治療が必要と思われた場合は、職員の自己判断はせず認知症の専門医に相談したり受診につなげている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接する同法人のサービスの看護職員から助言や協力をもらうことはあるが、日常の健康管理や協働とはいかない。		医療連携体制をとりたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	お見舞いに伺ったり、病院関係者との情報交換・相談に努め、早期退院できるようにしている。		入院機関のある病院との連携は出来ておらず、入院が長期化し退居されたケースが多くある。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、話し合い、利用者にとって何が良いのかを共に考えている。		ターミナルケアの必要性またリスクを配慮した上で今後終末期ケアも取り組んでいきたい。まずは医療連携体制加算の取得を目指す。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族との話し合いはある程度されているが、細かい点での整備はされていない。		家族や主治医など、周囲と協働しながら進めていかなければと考えている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えとなってしまった場合、関係者に対し出来る限りの情報交換、情報提供を行い、ダメージを最小限に抑えられるよう支援している。本人及び家族に対しても最善を尽くした対応を心掛けている。		本人及び家族が住み替えを望まない限り、できるだけ当事業所で生活を送っていただけるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常にサービスを提供させていただくという立場であることを教育している。職員には研修や日々の業務を通して周知徹底に努めている。個人情報保護マニュアルを整備している。また、社内規定にも明記されている。</p>		<p>定期的な働きかけが必要。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来ることは積極的に行ってもらい、できないことについてはさりげなく援助できるよう努める。</p>		<p>家事、掃除など日常生活を中心に日々活動し、その月の行事にかかわりのあるレクリエーションを行っている。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人のペースを大切に、できる限りのことは自分で行ってもらう。最善のサービスが出来るよう考慮し援助する。</p>		<p>その人らしい暮らしを維持できるよう、その場の状況のみや職員の都合に捕らわれることなく最善の支援が行えるようにする。サービスが過度にならないよう、日々職員と話し合っている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人より理美容の要望があれば、近所の理美容院へ行きカットやパーマなどを行っている。</p>		<p>本人の希望に出来るだけ添えるような体制を維持していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の負担にならない範囲で食事の準備、片付けを一緒に行っている。献立も利用者の嗜好を取り入れながら作成している。</p>		<p>入居者様と一緒に食事や準備、片付けを行っています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>常に好みのものを取り入れるようにしている。希望にて、おやつを自己管理して頂いている方もいらっしゃいます。自己管理の出来ない方は、ご本人のおやつ及び副食を預かり、随時お出ししている。特に禁煙・禁酒の取り決めは行っていない。(喫煙に関しては喫煙場所の制限は設けている)</p>		<p>共同生活において、及び体調により、限界はあると思うが、出来るだけ希望に沿った生活を営んで頂けるよう今後職員・ご家族・担当医等と相談の余地ありだと思います。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自然な排泄を基本としている。主治医とも連携し、場合によっては薬でのコントロールもある。羞恥心を配慮した介助の必要性を職員にも周知している。		排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握することで気持ちよく自然に排泄ができるように日々取り組んでいる。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴を提供している。入りたくない日には足浴を行い、体調に合わせて清拭を行うなど、利用者の状態に合わせて、対応している。		長年にわたり入浴の拒否が見られた方については個浴ではなく、銭湯等を活用し以前より入浴の機会が増えている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝、就寝時間、起床時間については、個人の状況にあわせて、その都度対応している。		個々に対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食堂や廊下、居室の清掃、調理の手伝い、花壇の手入れ、和裁、天気の良い日の散歩や買い物など、好みを聞きながらできることをしていただいている。		今後も役割や楽しみごととなる多くのものを提供できるよう支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承の下で、小額ではあるが本人が所持し、管理できる方にはしていただいている。		問題となる事は見られていない。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出掛けている。個人の対応もできる範囲で行っている。ドライブにも出かけている。地域に出かけたりする機会は比較的多い。		定期的に外食やドライブなど外出を実施している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	できる限り希望に添えるよう対応はしているが、個別には難しい場合数人または全員で出掛けたりしている。家族が対応してくれる場合もある。		より多くの機会をつくれるよう、家族の協力も含め今後より良い体制作りをおこなっていききたい。特定の入居者に支援が偏らないよう一人ひとりへの支援を考えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるようになっている。一人で掛けれない方に関しては職員が掛けて本人につないでいる。		届いた手紙や葉書のお礼としてご本人に電話をかけていただくなどの支援をしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつ来て頂いても居心地よく過ごしていただけるよう、GH内の整理整頓や、環境整備に努めている。また、挨拶等も元気がよく気持ちよく交わせる様職員に指導している。面会時間等特に設けず(常識の範囲内の時間)居室やホールでお茶をお出しゆっくり過ごしていただくように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっていない。マニュアルが整備されており、職員はいつでも目を通すことができる。		今後も研修や勉強会など知識を深めたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解のもと鍵はかけていない(夜間は防犯上玄関の鍵をかけている)。居室は夜間、入居者様が希望されて内側から鍵をかける場合がある。		今後も開かれたGHとして施設は行わないよう実践していく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホール内に一人以上の職員を配置し安全確認に努めている。居室で過ごされる方に関してはプライバシーに配慮しつつ訪室している。夜間は定期的に巡回をおこなっている。		職員間で常に連携を図るようにしている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日頃から職員間で検討・話し合う機会を設け、置き場所を工夫したり代替のもので対応する。		事故発生のリスクは常にあるということを忘れない。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修等を定期的に行い、知識の習得に努めている。また、一人ひとりの状態に合わせた、事故防止策をミーティングやカンファレンス時に適宜相談し実施している。緊急時のマニュアルを整備してある。		薬の準備、服薬に関してはダブルチェックをおこなっているが誤薬がなくなった訳ではないため改善の必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修等を定期的実施し、知識の習得を行ってが実際に対応したことのない職員が多い。		繰り返しの訓練の実施。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	研修等を定期的実施し、知識の習得を行っている。また、避難経路の確認や、地域の防災訓練に参加し、GHの存在を知っていただき、地域の方々より協力を得られるよう普段から積極的に働きかけを行っている。		もっと深く関係を築きより協力が得やすくなるよう更に努めていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と話す機会には、現状やこれから起こりうるリスクなどを話すようにして、理解を得るようにしている。		家族との関係作りを、もっと積極的に行っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、朝及び入浴前に、バイタルチェックを実施している。変化があれば細かなことでも情報は共有するよう努めている。		一ヶ月のバイタル表を作成し、その方のリズムの把握等を誰がみてもわかるように作成している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方、及び頓用処方箋を見やすいようファイリングして誰でもすぐに確認できるようにしている。職員には、高齢者が服用する事の多い薬については最低限知識として把握するように指導している。		誤薬や服用忘れが実際あり、服薬の重要性に関しては、今後も職員一人ひとりが認識し理解を深めていく必要がある。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や乳製品を多く摂っていただいたり、日常生活動作や体操、レク、散歩等において身体を動かす働きかけを工夫しながら取り組んでいる。		できるだけ薬に頼らない働きかけを今後も取り組んでいきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけ、見守りを行いまたは介助する。舌苔の観察も行っている。必要であれば歯科受診も行う。		定期的な歯科受診を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員でバランスを考えた献立作りを行っている。水分量の確保も定時に水分を補給するだけでなく、他の時間にも摂取出来るよう常に声がけをし補水を働きかけている。毎月体重測定を行っている。		更に改善を図りたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが整備されている。予防、対応などきちんと実施できている。		インフルエンザ予防接種、職員・利用者全員接種済み。職員の出勤時及び、散歩等の外出後には、イソジンうがい薬でのうがいと、手洗いを徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は基本的に加熱をしている。調理器具は塩素やアルコールで消毒している。作り置きはしない。生ものはストックしない。		今後も消毒を継続し、衛生面での清潔を保つように努力したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札は大きく見やすいものを掲げている。玄関周りには花壇を作ったり、ベンチを置いたりと気軽に立ち寄っていただけるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は会話のトーンや話し方に気を配っている。できるだけ自然の光を取り入れるようにし、季節感のあるもの、手作りの日めくりカレンダーを飾っている。共用空間の家電製品や家具等は一般家庭用のものを使用しており家庭的な雰囲気になっている。		更に自由に過ごしてもらえる空間の提供。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が気を配ることができ、入居者様が集える空間を設け居室や食卓以外にも自由に過ごせる居場所作りを工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は使い慣れたものを使用していただき、身の回りには好みのもや思い出の品を飾ったり居心地のよい空間作りに努めている。家族の写真や手紙を飾ったり、仏壇を置いている入居者の方もいる。		今後も本人が安心してくつろげる空間作りを一緒にしていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適宜におこなっている。 冷暖房の調節は入居者様に確認しながら状況に応じておこなっている。乾燥する季節には加湿器を設置している。		冬季、こたつを置いて欲しいと入居者の方から要望がある。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じて声かけ、見守りや介助を行っている。一人ひとりの身体機能を把握し、できることと援助が必要なこととの見極めを職員は行っている。		自立にて行えるときには見守りを行い、体調等により必要時は介助するなど、日内変動に対応している。「手は出さないが目は離さない」ことを心掛けている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室は利用者と話し合いのもと、名前と居室名を表示している。トイレや浴室など分かりやすく表示している。混乱や失敗が起きた場合は職員はさりげなくフォローするよう配慮している。		コミュニケーションにより、信頼関係を保つように努力している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に少し休憩できる様にベンチを設けたりと工夫している。		天気が良い日は屋外に洗濯物や布団を干したりと生活感を大切にしている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

この冬からGHで柴犬を飼い始め色々な場面で効果が現れています。動物と触れ合う機会を持つことで行動障害が少なくなってきたりとご家族も喜んでらっしゃいました。また、職員の離職率が下がった事で、職員一人ひとりの協力や入居者様への個別対応も上手くいきとても良好な関係が築けてきているように感じます。「入居者様主体のGH作り」を職員各自に考えてもらい、それに対して自分が何をすべきかを計画していただき現在実行中です。